

産コケ植物をある程度網羅した理解しやすい総合的な図鑑が必要であった。この待望の図鑑である「日本の野生植物コケ」(岩月, 2001)が2001年2月に発行された。今後、美しいカラー写真をふんだんに取り入れた画期的なこの図鑑がより多くの人々の手に渡り、コケ植物への関心が高まることを期待したい。

引用文献

- 千葉県環境部自然保護課(編), 1999. 千葉県の保護上重要な野生生物. 千葉県環境部自然保護課.
 広島市環境局環境企画課, 2000. 広島市の生物. 広島市環境局環境企画課.
 岩月善之助, 2000a. 概要無維管束植物-藓類-. 宮崎県の保護上重要な野生生物(宮崎県版レッドデータブック作成検討委員会編). pp.172-173. 宮崎県環境科学協会.
 岩月善之助, 2000b. 藓苔類概説. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-9 植物II(維管束植物以外)(環境庁編).

- pp.19-20. 環境庁自然保護局野生生物課.
 岩月善之助(編), 2001. 日本の野生植物コケ. 平凡社.
 環境庁, 1997. 植物版レッドリスト. 環境庁自然保護局野生生物課.
 環境庁(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-9 植物II(維管束植物以外). 自然環境研究センター.
 宮崎県版レッドデータブック作成検討委員会(編), 2000. 宮崎県の保護上重要な野生生物. 宮崎県環境科学協会.
 沖縄県環境保健部自然保護課(編), 1996. 沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物. 沖縄県環境保健部自然保護課.
 大塚政雄, 1998. 大分県産藓類ノート(4). 大分県植物研究会会報(8): pp.33-37.
 埼玉県環境部自然保護課(編), 1998. さいたまレッドデータブック. 埼玉県県政情報センター.
 杉村康司, 1999. 環境アセスメントにおけるコケ植物調査の現状と提案. 保全生態学研究(4): pp.199-205.

ミミカキグサから内水面漁撈習俗へ

田 賀 辰 也*



図1. アマゾン川でピラニアと

私と水草との関わりはミミカキグサから始まりました。今から25年以上も前の事になりますが、中学生の時に近くの溜め池で鮮やかな黄色の小さな花を咲

かせる草丈10cm足らずの植物を見つけ、理科の先生のところに持って行ったところ、「これは珍しいものを採って来た。食虫植物の仲間、ミミカキグサと言うんだ。」とずいぶん誉められました。今から思えば教育的配慮から大袈裟に誉めてくださったのでしょうか、すっかり気を良くした私は、それから水辺によく出掛けるようになったのです。

(ミミカキグサは大滝末先生の『日本水生植物図鑑』や角野康郎先生の『日本水草図鑑』にも取

*岡山県立倉敷天城高等学校

り上げられていないので私としては寂しいのですが、関心のある方は水草研究会会報10号(1982年12月)の「ミミカキグサも水草(小宮定志)」をご覧ください。

やがて新聞でオニバスが激減していることを知り、記事中で紹介されていた「専門家」に手紙を書いて、近くの溜め池でオニバスが生育している事を知らせました。中学生であった私に、親切にもたいへん丁寧な返事が届いたのですが、その方が大滝末男先生だったのです。後に、大滝先生の著書『水草の観察と研究(ニューサイエンス社・グリーンブックス)』の中の「オニバスの分布図」にその溜め池の名前を載せて頂き、感激したのをおぼえています。

その後、水草同好会(のちの水草研究会)に入れていただき、工学部に進学した私の専門とはほとんど無関係の領域ではありますが、籍だけは現在まで続いているという状態です。初めて全国集會に参加したのは第4回からで、倉敷、霞ヶ浦、戸隠高原と、いずれも思い出に残っています。

さて、水草研究のフィールドは淡水魚の棲息域と重なっていて、やがて私の興味は淡水魚へと移って行きました。漁業権が設定されている河川では一般の人ができる漁法には制約があるので、自由な採集調査を行うために地元岡山県小田郡矢掛町にある小田川漁業協同組合の組合員にさせていただきました。そのおかげで私の主なフィールドである矢掛町には40種近い淡水魚が棲息していることがわかりました。

淡水魚を捕まえるには魚の習性をよく知っていなければなりません。採集調査を通じて私は伝統的な内水面漁撈習俗が、魚の生態と河川の特性を

知り抜いた上に成り立ってきたまさに伝統文化と言えるものであることに気が付きました。現在、福武文化振興財団の助成を受けてその研究を行っています。

写真は、1999年の夏にブラジルのマナウス周辺のアマゾン川で撮影したホテイアオイとボタンウキクサの群落です。他にもたくさんの水草と出会ったのですが、勉強不足のためご紹介できないのが残念です。



図2. ホテイアオイ(ブラジル・アマゾナス州)

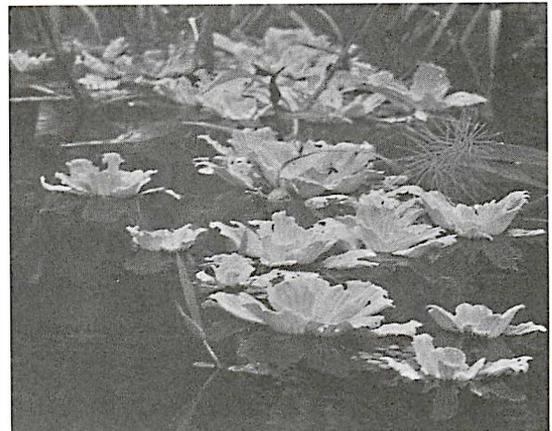


図3. ボタンウキクサ(ブラジル・アマゾナス州)